

シンクロニシティ



現在社会は貧富や能力など、一人ひとり格差があり、近年この格差は段々大きくなっているように思います。然し、人間生まれたときからそんなに不平等なのでしょうか？

「人は皆、神に生かされている。生まれたときから、人生のプログラムは決まっているのだ。」という人がある。本当だろうか？「それなら、なにも苦労して努力する必要はない」しかし、それを信じ込んで働かず、苦労を重ねる人の人生もまた、初めから決まっているのかもしれない。

「あなたはどう思いますか？」

私は思います。そんなの本当にわからない。しかし自分の人生を努力して切り開き、自分がイメージするような生き方をしたいと願っている。

さて、この度、ある先輩から「君は自分が立ち上げた仕事や趣味をいろいろ持っている。その原点は何ですか？ その秘訣は？」と聞かれて、シンクロニシティを思い出した。

「21世紀、シンクロニシティはどんどん起こり、それが時代を引っ張っていく」シンクロニシティとは偶然の一致とか単に偶然と理解した方がいいかもしれない。つまり、「21世紀は偶然が世の中を支配する。」ということか。

「21世紀は混沌の時代で、原因と結果が一本の線でつながらない。誰も予測できない時代だ」と言われています。でも、もともと、人間の行動はすべて偶然に支配されているともいえる。偶然の出会いが人生を変える。第一、我々がこの世に生まれてきたのも、全く偶然だし、結婚相手も生まれてくる子供もすべて、ほとんど無に近い確率から生まれ、切っても切れない関係になる。

前置きが長くなったが、私といろいろな仕事や趣味との出会いも、全く偶然から生まれたとしか言いようが無い。例えば趣味の水彩画である。以前から山歩きが好きで、一人で比良山とか比叡山などを登っていたが、もっと高い山に行きたくなった。だが、一人で登る自信がなく、たまたま山の雑誌で、山の絵を描く会が北アルプスで企画され、それに参加することにした。おそらく、山登りの途中、絵を描くのだから、その間休める。

しかし、実際はそうゆかなかった。あまりに山が美しく、中学校以来の水彩画だけど、描いているうち、興味がでてきた。絵とは、幾何学だ。バランスだ。

それがきっかけで、全く思いもしなかった絵を描くようになった。今から30年も前のことである。もちろん、当社が、風洞や風速計の開発を手がけるようになったのも、同じような偶然からである。

チャンスは誰にでも均等に予期しない時に訪れる。それを捕まえるか、逃がしてしまうのか、それはまた、その人の運命なのだろうか。

ここで、私の理解していることを披露しよう。

人は、自分のイメージ。即ちこうなりたい、こうしたい。例えばこんなものを開発して、こうして売りたい。とイメージしたとしよう。そうすれば、自分の願いにぴったりの偶然が訪れたとき、それにいち早く気づき、それを自分のものに出来る。

然し其の目的意識が漠然としていたら、見過ごしてしまう。従って、其の意識が自分の潜在意識まで昇華したとき、あだかも神から与えられたように、チャンスが自分に降り注いでくる。そうです、現在はシンクロニシティの時代です。

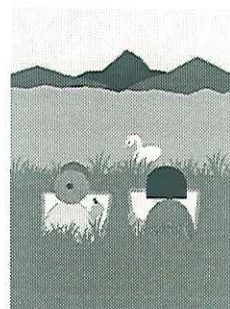
それを、十分に活用しましょう。

私は毎朝神棚に水を供え、神にお参りしています。其のとき、誓うのです。

この仕事を成就するために、こうします。とか・・・

読者の皆さんもやってみられたら如何でしょう？ 凄いシンクロニシティが起こるかも・・・

VEC 関西支部長・本田工業 株式会社
代表取締役 本田 英行



大阪証券取引所の上場サポート

～今とこれから～ <後編>

Q：上場した企業の具体的なメリット・デメリットの事例はありますか。

A：創業者利潤や資金調達以外でのメリットは「知名度アップによりビジネスチャンスが増えた」「外部からの情報量が増えた」「M・Aで買って欲しいという案件が来るようになった」「社員のモラルアップや責任感が強くなった」、デメリットは「M・Aに対する危険性」「経営者の自由度の制限」「管理コストの増大」などが挙げられております。

Q：新規上場基準が厳しくなっていますが・・・

A：上場基準が厳しくなっているわけではありませんが、実質審査基準においては、架空循環取引や食品産地偽装等、社会問題化した事項を確認する必要もあり、確認するポイントが増加しているのは事実です。取引所の確認ポイントの増加に伴い、監査法人、主幹事証券も同じスタンスで確認ポイントが増加しているものと思われまます。ただ、厳しい条件をクリアすることで組織力や経営力の強化につながると思っています。上場はゴールでなく手段と考えますが、今は市況低迷とそれに伴う業績低下のダブルショックです。早急な回復を祈っています。

Q：上場サポートや証券市場の活性化についてどのように取り組んで行かれますか。

A：例えば上場指向企業の掘り起しやサポートについては商工会議所など他の機関とも積極的に連携して行き、上場企業を増やし活力が出ることを実現したいと考えます。またすでに上場されている一部、二部の企業に対してもインサイダー取引やコンプライアンスについて研修サポートするなど応援しています。

Q：これから上場を考えている企業経営者にアドバイスを・・・

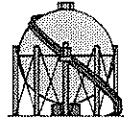
A：まず企業のビジネスモデル（将来成長計画、会社の位置づけとビジョンなど）と足元の業績を固めることがポイントです。同時に月次で予算・実績管理が出来ている事や組織づくり・人事体制も早めに準備が必要です。また、三六協定、社会保険の現状点検や反社会的勢力の排除なども重要な項目です。そして主幹事証券や監査法人とも連携して着実な準備をお願いします。

なお、何かございましたらお気軽に担当までご相談下さい。

大阪証券取引所・市場企画本部
上場サポートグループ・グループリーダー 岡野 豊

＜ご期待下さい。大阪ガスを！＞ <前編>

大阪ガスカスタマーリレーションズ（略称：OGCR）の倉橋です。



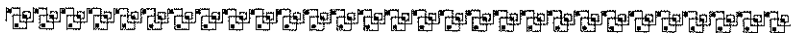
大阪ガスのグループ会社の一つです。

今回、「てんこもり」に執筆することになり、何を記載すべきか迷いましたが、わたくしの現業務のご紹介とVECとの関りの経緯ならびに会社の現状を紹介させていただきます。OGCRの中にコールセンター事業部があり、大阪ガスの総合窓口の業務をこなしています。大阪ガスをご使用いただいている約690万戸のお客さまのお問合せ窓口です。ここで働いているコミュニケーターは、ガスの開栓、閉栓、工事、料金の問合せ、ガス器具の使用法、ガス器具の修理等基本的な知識をもって対応しています。分からないケースで困った時にはわれわれ2次受付者がバックアップしています。何といたってもガスに関しては安全が第一です。その点はきちり教育されています。場所は、京セラドーム大阪の横と京都市ササキパークの2ヶ所にあります。今回はVECスタッフの方にもドームシティガスビル（京セラドーム横）をご見学戴きました。

さて、わたくしがVECの会合に参加させて戴いてから約25年になります。早いものです。その当時から、本田支部長さまにはいろいろとお世話になりっぱなしです。それまでは、大阪ガスで家庭用ガス器具の商品開発部門に在籍していましたが、大阪ガス自身は製造メーカーではありませんので、上司に『製造メーカーに向向してガス器具の開発・設計・製造・資材の調達を勉強したい。』と申し入れました。そうすると、当時塚にあったターダガス器具へ出向となりました。同時に、大阪ガスの新分野開発部藤井次長（当時）のご紹介でVECに参加させて頂きました。さて、ガス器具のトップメーカーはリンナイさんです。リンナイさんは本社が名古屋市にあります。そのリンナイさんの協力会社さん（中部地区）を調べさせて頂き、大変参考になりました。協力会社さんの部品の製造品質、コスト、納期が優れています。聞くと自動車の仕事とガス器具の仕事が半々と言う事。当時からトヨタさんの看板方式が著名でした。その影響も大いにあると感心しました。VECに参加されている企業のオーナーさまに、部品の製造や代替品について直接お伺いし、教を請いました。大変ありがたかったです。ターダガス器具は陽栄製作所と合併し、（株）ハーマンとなりました。わたくしの出向期間は5年でした。帰社にあたり、上司から、どこでも希望のところに任せると言われました。家庭用ガス器具に携わる前は、業務用・工業用のガス販売も経験していました。今までに経験が無かったのは、サービス部門です。上司はサービス部門の苦勞をされていた方です。なりと承は頂けませんでした。が、そこまで言うならと本社のサービス部門に配属になりました。この会社もサービス部門は苦勞が付きものようですね。

この続きは、また次回に。（次号へ）

大阪ガスカスタマーリレーションズ コールセンター事業部
マネジャー 倉橋 有三



続・拗ね者年金生活者の

“偏見・曲解・暴言ブログ” <中>

オバマ大統領の経済再建策が可決しました。報道によれば、総額の36%が中間・貧困層への減税です。さらに貧困層への住宅テコ入れも。「市場」は否定的（09/2/19時点）ですが、国家に対する「信頼」を取り戻そうとする「理念」は理解できます。我が国でも、相も変わらず、財政金融政策への過剰依存が目立ちます。

国債の利払いを抑え、ドルとの金利差を維持するという「属国」政策の結果が、今日の状況を招いたのに。時流に乗り、したり顔で解説する輩の多さにも辟易します。やれ大恐慌だ、処方箋は云々と喧々諤々。政府紙幣の大量発行という奇策を喧伝する人達も（ハイパーインフレにする気か！）。草野豊巳。私の知る範囲では、数年前から鋭い警告を発している。金融危機の構造的な根深さを指摘し、鳥瞰できる人です。世界のヘッジ・ファンドに精通しており、指摘も具体的です。

私見では、年金制度や雇用などが大きく揺らぎ、セーフティ・ネットも機能不全となって「国家社会」に対する不信感が高まっています。「共に生きる」より「競って争う」ことにシフトしているため、見事なまでに巧妙かつ狡猾に分断されています。世代、地域（都市・地方）、異性、学歴、大企業VS中小企業、公務員VS民間、健常者VSハンディを背負った者、正社員VS派遣社員・等など。この不信感を根底から一掃する政策が求められます。あらゆる既得権を見直し、社会のシステムを組み替え、「痛み」を分かち合いながら、「共に生きる」社会を再構築する必要があります。今こそ「フェア」「アンフェア」の意味を再確認すべきです。それが可能になって初めて、一人ひとりが自立回復に向けて頑張れるのではないのでしょうか？デンマーク、ノールウェイ、フィンランドなど北欧3カ国も含め、ヨーロッパの知恵に学びましょう。ラテンアメリカにも（佐野誠の指摘など）。

我が国は、四方を海に囲まれ、狭い国土ながら山河や四季など自然環境に恵まれています。さらに固有の伝統や文化を積み重ね、優れた「モノづくり」の知恵や技術を発展させてきました。ハードとソフトの融合も得意です（「てんこもり」08/7～9）。東京の大田区や東大阪に代表される、名も無い（志の高い）中小企業や家内工業が、日本経済の底辺を支えています。例えば、宇宙飛行、ジャンボ機、新幹線などハイテク技術は、これら中小零細企業の協力が不可欠であることは、広く知られる

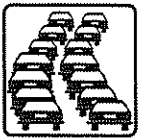
ようになりました。希望の兆しも見えます。派遣切りに反対し、連帯して戦うという組合も出てきました。大きな犠牲を払いながら、他人のためにNGO、NPOに身を投じる若い人たちの存在も頼もしい。ノーベル賞の輩も嬉しい出来事です。私個人は、土地・水・空気など自然環境は、公共財と考えています。人間を「商品」と見做す考えにも断固反対です。教育・医療・福祉といった「いのち」に関わる領域の商品化にも反対です。次世代にツケを回さないため、禍根を残さないために、「徹底的な情報公開」と「透明性の確保」、タックスペイヤー（納税者）の自覚と自立が必要と確信しております。（07/10～12再掲）

（※5月号の6行目CFOをCEOに訂正いたします）

OHSマネジメント 代表 羽世田鉦四郎



◆一名古屋市民が見たトヨタショック



3月23日国土交通省から2009年1月1日時点の公示地価が発表された。それによると、全国の商業地の下落率上位10位内に名古屋市の9地点が入り、かつて名古屋駅前に超高層ビル「ミッドランドスクエア」の建設が進んでいた2005～06年に、商業地の上昇率で全国10位内に名古屋市の8地点が占めていたことを考えると、名古屋経済の元気玉も過去のものとなりつつある。偶々、先日久し振りに乗ったタクシーの運転手は、「従来の不況は下りのエスカレーターのようにジワジワと来たが、今回は昨年後半からエレベーターの急降下のような」と言っていた。その原因は、マスコミ等によると「サブプライム問題」でも「リーマンショック」でもなく（遠因ではあろうが）、「トヨタショック」であると報じられている。確かにトヨタ及びトヨタ系関連会社では出張禁止、交際接待削減の指示が出ている由。その影響は中部国際空港から錦三のネオン街にまで及んでいる。また、豊田市では、法人市民税が前年度当初予算比▲426億円の16億円となり、▲96.3%になった。実に40年前、1969年の水準である。

ところで、かつて本欄で「名古屋経済の元気玉の基は、日頃から真面目にコツコツと働き、儉約に励み、イザと言う時には効果的にお金を使う名古屋人気質である」と述べたが、今回の状況を見ていると、世界一のトヨタですら、自社の生き残りの為に、出張禁止など近隣窮乏化策を採っている。キリギリス宜しく、日頃から無駄遣いをしてきた政府は、更にばら撒いて景気を浮揚しようとしているが、何れその付けが自分のところに回ってくることを考えると手放して喜ぶ訳にもいかない。今こそ名古屋人気質を発揮すべきであるが、まだ今はイザという時ではないと考えているのか、戦後最長の好景気が続いたと言われるこの十年の間に名古屋人気質なるものが既に失われてしまったのか、何れにしろこのままでは名古屋経済は奈落の底まで落下せざるを得ない。それだけにこの時期、「まいど1号」を成功させた東大阪の企業の英知と努力と勇気には拍手喝采を贈りたい。

佐々木 隆夫（名古屋在住の銀行OB）

～今月から改正薬事法が施行されます～
大衆薬の販売制度が大きく変わりビジネスチャンス到来の企業もありそうです・・・。

～VEC関西より～

- ▲ 久しぶりに「てんこもり」編集長より投稿の依頼があったので、私なりの考え方を披露しました。「てんこもり」はベンチャーニュースの面もありますが、おもしろい考え方等もご披露願ひ、格調高い？ご意見を頂ければ、より充実するかと思います。（本田）
- ♥ 私の住む市の体育大会開会式に参加して来ました。バトントワリング日本一になった高校1年生の演技を見ることができ、その見事さに拍手喝采でした。8月のシドニー世界大会に出場されるそうです。彼女たちを応援したいものです。（藤本）
- ♣ 今年も最早「中間点」を迎えましたが、後半は是非、不透明感から脱出したいものです。本田流の哲学、岡野氏・羽世田氏のエコノミー、倉橋氏のエネルギー、佐々木氏の名古屋とトヨタなど幅広くコメントを頂きました。（澤村）
- ◆ <交流会予定>
7月15日（水） 株式会社エムズサイエンス
代表取締役 嶋内 明彦 様

☎:06-6263-0366